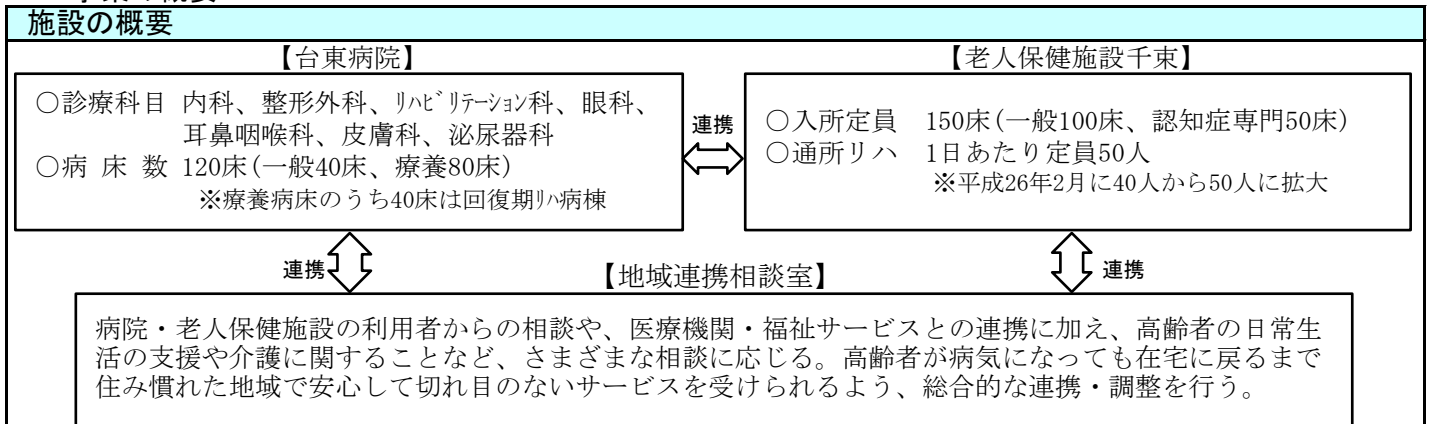


令和元年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表
(平成30年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区（病院所管課：健康部健康課、老健所管課：福祉部高齢福祉課）
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

1 事業の概要



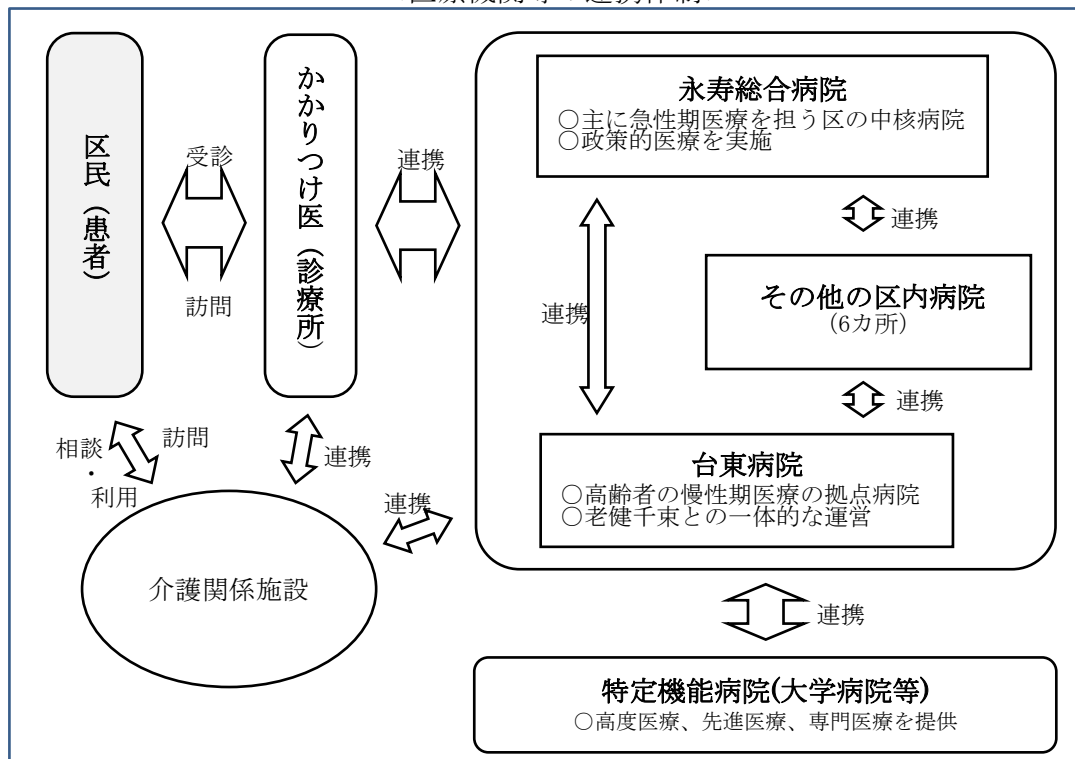
- 施設の基本理念**
- 高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。
 - 高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。
 - 高齢者が施設や在宅で必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。
 - 安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。
 - 快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。
 - 『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。

基本方針	
台東病院	<ul style="list-style-type: none"> ○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。 ○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。 ○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活を送れるよう、医療を提供します。 ○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。 ○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。
老健千束	<ul style="list-style-type: none"> ○良質で包括的なサービスを提供します。 ○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。 ○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。 ○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。

2 指定管理者の運営理念等

運営理念
『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します
運営基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者医療に力をいれます ○ 在宅医療を支援します ○ まずは受け入れるという姿勢を持ちます ○ 地域と連携してサービスを提供します ○ 医療に恵まれない地域の支援を行います

< 医療機関等の連携体制 >



3 事業の現況とその推移

(1) 経営の状況

(1,000円未満を四捨五入、単位：千円)

区分		28年度	29年度	30年度	前年度比	主な計上科目	
台東病院	収益	医業収益	1,942,504	2,026,018	2,064,818	38,800	入院・外来収益等
		医業外収益	134,669	127,908	136,530	8,622	指定管理料・売店収益等
		合計	2,077,173	2,153,926	2,201,348	47,422	
		(うち指定管理料)	44,280	44,280	44,280	0	指定管理料
	費用	医業費用	2,053,293	2,105,905	2,147,324	41,419	給与費・材料費・委託費等
		医業外費用	60,661	69,779	69,007	△ 772	売店運営費用
		合計	2,113,954	2,175,684	2,216,332	40,648	
	損益	医業損益	△ 110,789	△ 79,887	△ 82,506	△ 2,619	—
		医業外損益	74,008	58,129	67,523	9,394	—
合計		△ 36,781	△ 21,758	△ 14,984	6,774		
老健千束	収益	事業収益	880,323	923,205	953,661	30,456	入所・通所リハ収益等
		事業外収益	5,142	5,609	7,329	1,720	患者外給食委託費等
		合計	885,465	928,814	960,990	32,176	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	—
	費用	事業費用	787,032	811,390	844,377	32,987	給与費・材料費・委託費等
		事業外費用	14,055	26,000	22,972	△ 3,028	患者外給食委託費等
		合計	801,087	837,390	867,349	29,959	
	損益	事業損益	93,291	111,815	109,284	△ 2,531	—
		事業外損益	△ 8,913	△ 20,391	△ 15,643	4,748	—
合計		84,378	91,424	93,641	2,217		
全体	収益	事業収益	2,822,827	2,949,223	3,018,479	69,256	
		事業外収益	139,811	133,517	143,860	10,343	
		合計	2,962,638	3,082,740	3,162,338	79,598	
		(うち指定管理料)	44,280	44,280	44,280	0	
	費用	事業費用	2,840,325	2,917,295	2,991,701	74,406	
		事業外費用	74,716	95,779	91,980	△ 3,799	
		合計	2,915,041	3,013,074	3,083,681	70,607	
	損益	事業損益	△ 17,498	31,928	26,778	△ 5,150	
		事業外損益	65,095	37,738	51,880	14,142	
合計		47,597	69,666	78,658	8,992		

収支の概要

台東病院	<p>前年度と比べ、医業収益は約3,880万円(1.9%)増の20億6,482万円、医業費用は約4,142万円(2.0%)増の21億4,732万円で、医業損益は約262万円減の8,251万円の赤字となった。</p> <p>医業外収益は約862万円(6.7%)増の1億3,653万円(指定管理料4,428万円を含む)、医業外費用は約77万円(1.1%)減の6,901万円で、医業外損益は約939万円(16.1%)増の6,752万円の黒字となった。</p> <p>この結果、台東病院全体の損益は約677万円増の1,498万円の赤字となった。</p>
老健千束	<p>前年度と比べ、事業収益は約3,046万円(3.3%)増の9億5,366万円、事業費用は約3,299万円(4.1%)増の8億4,438万円で、事業損益は約253万円(2.3%)減の1億928万円の黒字となった。</p> <p>事業外収益は約172万円(30.7%)増の733万円、事業外費用は約303万円(11.7%)減の2,297万円で、事業外損益は約475万円(23.3%)増の1,564万円の赤字となった。</p> <p>この結果、老健千束全体の損益は約222万円増の9,364万円の黒字となった。</p>

(2) 運営の状況

① 役割・機能

【台東病院】

区分		28年度	29年度	30年度	前年度比	備考
体制	職員数	148人	152.1人	147.8人	△4.3人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数 ○職員数合計は医師、看護・介護職員、リハビリ職員の合算
	医師	17.0人	17.0人	17.0人	0.0人	
	常勤医師	9.5人	10.5人	10.5人	0.0人	
	非常勤医師	7.5人	6.5人	6.5人	0.0人	
	看護・介護職員	103人	102.6人	98人	△4.6人	
	リハビリ職員	28人	32.5人	32.8人	0.3人	
入院	病床利用率	91.6%	91.8%	90.8%	△1.0%	病床利用率＝延べ入院患者数÷延べ病床数×100
	一般	88.9%	89.2%	89.7%	0.5%	
	回復期リハ	92.5%	92.5%	91.6%	△0.9%	
	療養	93.4%	93.8%	91.2%	△2.6%	
	延べ入院患者数	40,117人	40,226人	39,779人	△447人	平成30年度に新たに入院された患者数
	50歳代以下	10.8%	4.6%	5.8%	1.2%	
	60歳代	10.4%	8.7%	6.9%	△1.8%	
	70歳代	20.4%	25.4%	22.0%	△3.4%	
	80歳代	38.4%	40.9%	44.5%	3.6%	
	90歳代以上	20.0%	20.5%	20.8%	0.3%	
	新入院患者数	1,145人	1,085人	1,080人	△5人	平成30年度に新たに入院された患者数
	一般	933人	865人	837人	△28人	
	回復期リハ	159人	136人	161人	25人	
療養	53人	84人	82人	△2人		
平均在院日数	34.9日	37.0日	36.9日	△0.1日	延べ入院患者数÷{(新入院患者数+退院患者数)÷2}	
一般	16.4日	17.3日	17.8日	0.5日		
回復期リハ	57.9日	68.0日	65.1日	△2.9日		
療養	111.3日	102.6日	98.3日	△4.3日		
台東区民の占める割合	87.4%	84.9%	85.6%	0.7%		
回復期リハ病棟の在宅復帰率	85.9%	80.1%	84.5%	4.4%	1年間分	
外来	延べ患者数	76,713人	74,957人	75,568人	611人	延べ患者数÷外来診療日数
	1日平均患者数	261.8人	255.8人	258.8人	3.0人	
	初診患者数	11,684人	11,306人	11,559人	253人	初診料を算定した患者数
	新患率	15.2%	15.1%	15.3%	0.2%	初診患者数÷延べ患者数×100
	台東区民の占める割合	88.4%	87.7%	87.6%	△0.1%	
	初期救急患者数	1,020人	1,032人	987人	△45人	
	救急車受入数	308人	332人	273人	△59人	
来院患者数	712人	700人	714人	14人		

【老健千束】

区分		28年度	29年度	30年度	前年度比	備考
体制	職員数	86.8人	84.2人	85.7人	1.5人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数
	医師	1.5人	1.5人	1.5人	0.0人	
	介護・看護職員	76.8人	74.2人	74.4人	0.2人	
	リハビリ職員	8.5人	8.5人	9.8人	1.3人	
入所	入所利用率	91.6%	91.8%	92.4%	0.6%	延べ入所者数÷延べベッド数×100
	1日あたり短期入所者数	9.9人	9.6人	9.4人	△0.2人	延べ短期入所者数÷365日
	延べ入所者数	50,166人	50,261人	51,194人	933人	延べ入所者数は長期入所と短期入所(ショートステイ)の合算
	60歳代以下	1.9%	1.0%	3.1%	2.1%	
	70歳代	10.0%	8.1%	10.1%	2.0%	
	80歳代	44.1%	44.3%	39.4%	△4.9%	
	90歳代以上	44.0%	46.6%	47.3%	0.7%	
	平均在所日数	264.2日	225.6日	244.5日	18.9日	延べ入所日数÷{(新規入所者数+退所者数)÷2} ※1年間分
	回転率	11.5%	13.4%	12.4%	△1.0%	年間平均暦日数÷平均在所日数×100
台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	99.9%	0%		
在宅復帰率	28.6%	36.9%	45.1%	8.2%	退所先が自宅やグループホーム等の割合	
通所	1日あたりの利用者数	42.5人	43.0人	41.8人	△1.2人	延べ利用者数÷通所営業日数
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0%	

【連携等】

区分		28年度	29年度	30年度	前年度比	備考	
地域連携相談室	職員数	9.0人	9.0人	10.0人	1人	全て常勤換算人数	
	社会福祉士	2.0人	2.0人	2.5人	0.5人		
	支援相談員	2.0人	2.0人	2.5人	0.5人		
	介護支援専門員	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	事務員	3.0人	3.0人	3.0人	0人		
	相談件数	1,789件	1,931件	2,111件	180件	主たる内容により区分。	
	入院（一般）	933件	865件	837件	△28件		
	入院（回復期リハ）	317件	355件	408件	53件		
	入院（療養）	157件	155件	203件	48件		
	入所	202件	354件	471件	117件		
通所	180件	202件	192件	△10件			
紹介	入院患者	616人	547人	577人	30人	○検査依頼を除く、医師の紹介状（診療情報提供書）を持参した患者数 ○紹介率＝（紹介状持参患者数＋救急患者数）÷初診料算定患者数 ＝ 15.5%	
	一般	415人	345人	341人	△4人		
	回復期リハ	149人	125人	159人	34人		
	療養	52人	77人	77人	0人		
	診療所からの紹介（再掲）	173人	150人	148人	△2人		
	外来患者	929人	938人	940人	2人		
	病院から	474人	428人	425人	△3人		
	診療所から	433人	489人	500人	11人		
施設から	22人	21人	15人	△6人			
逆紹介	入院患者	404人	376人	387人	11人	○診療情報提供料を算定した患者数（返送患者を含む） ○逆紹介率＝診療情報提供料算定患者数÷初診料算定患者数 ＝ 16.1%	
	一般	211人	194人	189人	△5人		
	回復期リハ	136人	111人	136人	25人		
	療養	57人	71人	62人	△9人		
	診療所への逆紹介（再掲）	160人	150人	167人	17人		
	外来患者	1,226人	1,314人	1,472人	158人		
	病院へ	897人	955人	1090人	135人		
	診療所へ	213人	281人	304人	23人		
施設へ	15人	15人	12人	△3人			
宛名なし等	101人	63人	66人	3人			
返送	入院患者	138人	114人	125人	11人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送（診療情報提供料を算定）した患者数	
	一般	72人	59人	64人	5人		
	回復期リハ	46人	33人	42人	9人		
	療養	20人	22人	19人	△3人		
	診療所への返送（再掲）	84人	73人	78人	5人		
入退院患者・入退所者の経路	新入院患者	自宅から	46.3%	50.2%	46.6%	△3.6%	新入院患者の総数は、 28年度1,145人、29年度1,085人、30年度1,080人
		診療所からの紹介	15.1%	13.8%	13.7%	△0.1%	
		他病院からの紹介	26.7%	25.5%	31.0%	5.5%	
		福祉施設等から	6.5%	7.5%	5.3%	△2.2%	
		老健千束から	5.4%	3.0%	3.4%	0.4%	
	退院患者	自宅へ	43.8%	48.2%	47.0%	△1.2%	退院患者の総数は、 28年度1,151人、29年度1,090人、30年度1,077人
		診療所への逆紹介	13.9%	13.7%	15.5%	1.8%	
		他病院への転院	7.8%	6.3%	7.8%	1.5%	
		他病院の外来への紹介	4.0%	4.8%	4.6%	△0.2%	
		福祉施設等へ	9.6%	9.7%	8.0%	△1.7%	
		老健千束へ	8.5%	7.9%	6.5%	△1.4%	
	看取り	12.4%	9.4%	10.6%	1.2%		
	新入所者	自宅から	26.0%	36.2%	34.9%	△1.3%	新入所者の総数は、 28年度177人、29年度235人、30年度218人
		福祉施設等から	2.3%	2.6%	2.8%	0.2%	
		台東病院から	44.0%	36.2%	32.1%	△4.1%	
		他の病院から	27.7%	25.0%	30.3%	5.3%	
退所者	自宅へ	20.3%	25.3%	27.6%	2.3%	退所者の総数は、 28年度202人、29年度233人、30年度217人	
	福祉施設等へ	31.2%	40.8%	37.8%	△3.0%		
	台東病院へ	27.7%	13.7%	17.1%	3.4%		
	他の病院へ	8.9%	8.2%	8.8%	0.6%		
看取り	11.9%	12.0%	8.8%	△3.2%			
緊急一時病床利用者数	200人	172人	155人	△17人	うち在宅療養患者の受入は54人		
退院前カンファレンス件数	197件	218件	194件	△24件	多職種による検討会の実施件数		
訪問リハビリテーション延べ利用者数	2,472件	2,226件	2,354件	128件	平成23年2月より実施		

②経営分析

区分		28年度	29年度	30年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	98.3%	99.0%	99.3%	0.3%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	2.1%	2.0%	2.0%	0.0%	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	73.0%	71.1%	71.2%	0.1%	職員給与÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	5.1%	5.8%	5.8%	0.0%	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	14.4%	14.6%	14.3%	△0.3%	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	91.6%	91.8%	90.8%	△1.0%	延べ入院患者数÷延べ病床数×100	
	1日外来患者数	261.8人	255.8人	258.8人	3.0人	延べ患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	31,544円	33,471円	33,836円	365円	入院収益÷延べ入院患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	6,723円	6,962円	7,228円	266円	外来収益÷延べ外来患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	291,807円	338,013円	284,622円	△53,391円	(入院収益+外来収益)÷年延べ医師数(看護・介護職員数)	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	45,530円	50,371円	51,595円	1,224円		
	CT	稼働率	84.3%	56.2%	60.5%	4.3%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(20件)×外来診療日数)×100 *28年度までは検査可能件数12件
		検査件数	2,965件	3,295件	3,534件	239件	
		うち検査依頼受付件数	289件	305件	346件	41件	
MRI	稼働率	66.7%	75.4%	75.4%	0.0%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(12件)×外来診療日数)×100	
	検査件数	2,345件	2,651件	2,641件	△10件		
	うち検査依頼受付件数	245件	423件	477件	54件		
老健千束	事業収支比率	110.5%	110.9%	110.8%	△0.1%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0%	0%	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与費比率	56.2%	55.6%	56.6%	1.0%	職員給与÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	13.5%	13.5%	12.8%	△0.7%	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	91.6%	91.8%	92.4%	0.6%	延べ入所者数÷延べベッド数×100	
	1日通所利用者数	42.5人	43.0人	41.8人	△1.2人	延べ利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	14,635円	14,663円	14,746円	83円	入所収益÷延べ入所者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	10,983円	10,739円	11,821円	1,082円	通所収益÷延べ利用者数	

③計画的・改善状況等

区分		28年度	29年度	30年度	前年度比	備考
講演会		17件	17件	6件	△11件	喫煙防止教室、がん禁煙講演
その他区民向けイベント		12件	23件	22件	△1件	ミニコンサート、看護の日イベント、認知症カフェ
投書件数		66件	52件	56件	4件	
	謝意	28件	19件	26件	7件	
	助言	8件	6件	9件	3件	
	苦情	30件	27件	21件	△6件	

主な意見と対応

【謝意】○ 大晦日の夜に高熱が出て、かかりつけの病院に救急診療を依頼したが断られてしまった。そのため、台東病院に相談したところ、かかりつけの病院に連絡を取ってもらい、かかりつけの病院で受診できるよう対応してくれた。

【助言】○ 重い荷物を持って動くのがつらいのでコインロッカーがあると助かる。
⇒手荷物用のコインリターン式ロッカーを1階の外来受付横に設置した。

【苦情】○ 清掃作業が雑だった。
⇒清掃委託業者に丁寧に清掃作業を行うように指導した。

④その他

居宅介護支援事業所千束（自主事業）

2名体制で運営しているが、1名が休職したため、担当件数を増やせない状況であった。また、請求につながらないケース（入院中から介入するも在宅退院に至らなかったケース、ケアプランが居宅療養管理指導料のみや自費による福祉用具貸与のみのケース等）もあったため、請求件数が月平均37名に留まった（29年度月平均40.5名）。

令和元年6月現在では当該職員が職場復帰しているため、今後、2名体制を維持しつつ、介護給付管理件数（請求件数）の増加に努めていく。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1) 役割・機能の評価

①台東病院が慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか ※医療連携については別途評価	
【参考指標】入院患者、外来患者の実績(P4)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、新入院患者数が5人(0.5%)減の1,080人、平均在院日数が病棟全体で0.1日(0.3%)減、全体の病床利用率が91.8%から90.8%に減少しているが、外来患者数は増加し、回復期リハ病棟の在宅復帰率も向上している。入院患者の約9割は70歳以上であり、病床利用率は90%以上を維持し、急性期病院からの回復期・慢性期病棟への受入や、在宅復帰へ向けた多職種による医療環境の調整、支援、それらに必要な訪問リハビリテーション等の体制を整えており、慢性期医療(高齢者医療)を担う拠点病院として機能している。
協議会 評価 A	根拠 入院部門については、全病床の合計利用率は90%を超え、回復期リハ病棟の在宅復帰率は80%を超えており、堅調に推移している。また、外来部門については、患者数が前年度より増加し、急性期病院からの受入や、多職種による調整、支援等による在宅復帰へ向けた体制を整えていることから、慢性期医療(高齢者医療)を担う拠点病院として機能していたと評価できる。

②老人保健施設千束が在宅復帰に向けた入所施設として機能しているか ※地域との連携については別途評価	
【参考指標】入所者の実績(P4)など	
事業者 評価 A	根拠 有料老人ホームへの入所者が増えたことや社会福祉士の採用もあり、在宅復帰率は前年度比8.2ポイント増の45.1%、入所利用率は、0.6ポイント増の92.4%となった。 また、平成30年度の介護報酬改定により、年度当初は、「基本型+在宅復帰在宅療養支援機能加算型」であったが、在宅復帰やリハビリテーション体制の強化等により、10月からは上位基準となる「在宅強化型」の施設基準を取得した。「在宅強化型」以上の施設基準を取得している老健は、全国で26.8%(全国老人保健施設協会より)であることから、在宅復帰に向けた入所施設として機能している。
協議会 評価 A	根拠 在宅復帰率及び入所利用率は、社会福祉士の採用による連携の強化により、前年度に比べ上昇している。また、在宅復帰やリハビリテーション体制の強化等により、「在宅強化型」の施設基準を取得したことから、在宅復帰に向けた入所施設として機能していると評価できる。

③医療機関等との連携は適切に行われているか	
【参考指標】医療連携の実績(P5)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、紹介入院患者数は30人増の577人、逆紹介入院患者数は11人増の387人、紹介外来患者数は2人増の940人、逆紹介外来患者数は158人増の1,472人であった。 多職種連携による退院前カンファレンス件数は、退院患者数の減により24件減の194件となったが、他医療機関からの検査依頼件数はCTが41件(13.4%)増の346件、MRIが54件(12.8%)増の477件と増加しており、医療機関等との連携は適切に行われている。
協議会 評価 A	根拠 前年度に比べ、入院部門、外来部門ともに、紹介及び逆紹介患者数が増加している。 また、多職種連携による退院前カンファレンス件数は退院患者数の減により減少したが、他医療機関からの検査依頼件数については増加していることから、医療機関等との連携は適切に行われていたと評価できる。

④台東病院と老人保健施設千束が連携しながら、互いの機能を効果的に発揮しているか

【参考指標】入退所経路の実績(P5)など

事業者 評価 A	根拠	<p>老人保健施設千束の入所経路の割合において、台東病院からの入所割合が昨年度の約36%から32%に低下しているが、これは他の病院からの入所割合が増加したことによるものである。台東病院からの入所実人数については、平成28年度78名、平成29年度85名、平成30年度70名であり、連携が図られている。</p> <p>また、引き続き、重症の方は療養病棟、軽症の方は老健で受け入れるという取組みを行うことで、療養病棟入院基本料1の施設基準を維持しており、複合施設の利点、互いの機能を効果的に発揮している。</p>
協議会 評価 A	根拠	<p>台東病院から老人保健施設千束への入所は堅調に推移しており、連携が図られている。また、病院と老健が受入について役割を分担することにより、療養病棟入院基本料1の施設基準を維持し、診療報酬を確保していることから、複合施設の利点、互いの機能を効果的に発揮していると評価できる。</p>

⑤退院・退所後も、家族等の支援や在宅でのリハビリテーションの支援等により、在宅生活を支援しているか

【参考指標】通所リハビリテーションの実績(P4)、訪問リハビリテーション延べ利用者数の実績(P5)など

事業者 評価 A	根拠	<p>通所リハビリテーションの1日あたりの利用者数は、43.0人から41.8人と微減しているが、昨年度に引き続き、看護師を常時配置し医療依存度の高い利用者の受入(中重度ケア体制加算届出)を行っている。また、みなし事業である訪問リハビリテーションの延べ利用者数は、2,226件から2,354件と128件増加している。さらに、毎月、認知症カフェを開催しており、在宅生活を支援している。</p>
協議会 評価 A	根拠	<p>通所リハビリテーションの1日あたりの利用者数は前年度に比べ減少しているが、引き続き、看護師を常時配置し医療依存度の高い利用者の受入を行っている。また、訪問リハビリテーションの延べ利用者数は前年度に比べ増加しており、認知症カフェを開催するなど、在宅生活を支援していると評価できる。</p>

【その他】適切な機能水準が満たされているか

平成31年3月に日本医療機能評価機構の病院機能評価(一般病院1)の更新審査を受審し、令和元年5月2日に認定を取得した。評価項目ごと、機能や業務水準について評価・見直しを行っている。

(2) 効率性・経済性の評価

①台東病院の施設・機器等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(P6)など	
事業者評価 <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; text-align: center; margin: 0 auto;">B</div>	根拠 延べ入院患者数がやや減少したことにより、病床利用率が前年度比1ポイント減の90.8%となったが、延べ外来患者数は昨年より611人増の75,568人、1日あたりの外来患者数が3.0人増の258.8人となっている。放射線機器については、前年度よりCTは239件増の3,534件、MRIは10件減の2,641件、うち他院からの依頼が、CTが41件増の346件、MRIが54件増の477件となっているが、目標検査件数（CT 5,840件、MRI 3,504件）にはまだ届いていないため、施設・機器等については効率的な活用に努める必要がある。
協議会評価 <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; text-align: center; margin: 0 auto;">B</div>	根拠 施設については、病床利用率が堅調に推移しており、また外来患者数は前年度より増加していることから、効率的に活用されていると評価できる。CT、MRIといった高額医療機器については、検査件数は上昇傾向であるが、目標件数に達していないため、検査件数の増加に取り組み、効率的に活用することが求められる。

②老人保健施設千束の施設等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(P6)など	
事業者評価 <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; text-align: center; margin: 0 auto;">A</div>	根拠 入所利用率は、前年度比0.6ポイント増の92.4%であった。屋上を活用した園芸療法や、エントランスを使用した利用者作品展といった行事等にも昨年同様に取り組んでいる。また、ボランティアによるアロマセラピーも導入しており、地域住民の協力も得ながら効率的に施設等を活用している。
協議会評価 <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; text-align: center; margin: 0 auto;">A</div>	根拠 入所利用率は前年度に比べ増加している。また、屋上やエントランスなどの共用スペースの活用や地域住民の協力による多様なリハビリテーションを実施しており、施設等を効率的に活用していると評価できる。

③台東病院の事業運営の効率性は発揮されているか		※医業外収支は評価対象外
【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など		
事業者評価 <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; text-align: center; margin: 0 auto;">B</div>	根拠 29年度と比較し医業収益は1.9%増加したものの、医業費用も2.0%の増加となった。材料費比率は0.3ポイント減少の14.3%、給与費比率は0.1ポイント増加の71.2%、委託費比率は横ばいの5.8%であった。給与費比率については、運営協議会において改善努力を求められている。また、昨年度同様、設備関係費について経年劣化による修繕や新規備品の購入増加や、人件費の高騰等による委託費の増加が見込まれることから、今後も計画的な事業運営に努め、適正な経営に取り組む必要がある。	
協議会評価 <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; text-align: center; margin: 0 auto;">B</div>	根拠 診療報酬の改定や加算の取得等により医業収益は改善したが、職員給与費や経年劣化による設備の修繕及び備品の更新に係る費用の増加により、赤字となっている。今後も、それらの費用の増加が見込まれる中、給与費比率の改善等効率的な運営に取り組むことが求められる。	

④老人保健施設千束の事業運営の効率性は発揮されているか		※事業外収支は評価対象外
【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など		
事業者評価 <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; text-align: center; margin: 0 auto;">A</div>	根拠 平成30年度の介護報酬改定以前から在宅復帰率だけに捉われず、在宅復帰が見込まれない重度者や医療行為のある利用者も受け入れる取り組みをしてきた結果、介護報酬改定の直後から「基本型+在宅復帰在宅療養支援機能加算型」の施設基準を取得することができた。また、社会福祉士の増員及びリハビリテーション体制の強化を行い、平成30年10月には上位基準の「在宅強化型」の施設基準を取得するとともに、入退所前後の訪問指導加算や短期集中リハビリテーション実施加算の算定件数増にも取り組んだ。その結果、平成29年度比で収益増につながっているため、事業運営の効率性は発揮されている。	
協議会評価 <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; text-align: center; margin: 0 auto;">A</div>	根拠 平成30年度途中に上位の施設基準を取得し、入退所前後の訪問指導加算や短期集中リハビリテーション実施加算の算定件数増加に取り組んだことにより、前年度に比べ増収となっていることから、事業運営の効率性は発揮されていたと評価できる。	

(3) 計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか

【参考指標】平成30年度評価表(別紙)など

事業者 評価 A	根拠	老人保健施設千束に関する「在宅復帰率を高めながらも、空床が出ないように取組みを行ってほしい。」との意見については、空床を最小限に留め、速やかな入所に繋げるため、居宅介護支援事業所等との連携を強化した。具体的には、社会福祉士の増員により、サービス担当者会議やカンファレンスへの出席率を高めるなど、顔の見える関係づくりに努めた。また、空床情報の発信も随時行っており、運営協議会の意見を運営に活かすことができている。
協議会 評価 A	根拠	社会福祉士を増員し、居宅介護支援事業所等との連携強化に努めるなど、空床を最小限に留めるための取組みが行われていることから、運営協議会の意見を運営に活かしていると評価できる。

②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか

【参考指標】投書件数、主な意見と対応(P6)

事業者 評価 A	根拠	利用者からの意見を受け、1階外来受付横に手荷物用のコインリターン式ロッカーを設置した。また、各病室の洗面所にペーパータオルを設置し、衛生環境の整備を行った。引き続き、ご意見箱(皆さまのお声)への投稿等様々な場所にて頂いた意見に対し一括管理を行い、ご意見の内容、それに対する改善・対処に関して掲示しており、意見の共有及び対応に関する取組みが出来ている。
協議会 評価 A	根拠	利用者から寄せられた意見について、管理共有ができる体制を整えており、コインリターン式ロッカーを設置するなど、適切な対応がとられている。また、投書の謝意の件数が前年度に比べ増加し、苦情の件数が減少していることから、利用者の意見を取り入れ、運営に活かしていると評価できる。

③区立の病院・老人保健施設だからこそできる役割を果たしているか

事業者 評価 A	根拠	『認知症カフェ』、『看護の日イベント』などの区民向けイベントが好評を博しているため今後も実施する。また、病院においては、認知症、生活困窮者、住所不定者、虐待が疑われる社会的問題を抱えた患者等の受入、老健においては、他の施設での入所が難しいとされる在宅復帰が困難な利用者、医療依存度が高い利用者等の受入を行っている。病院と老健が併設していることによるスムーズな受入もできており、区立施設としての役割を果たしている。
協議会 評価 A	根拠	区民向けイベントを定期的で開催しており、その取組みは定着し、好評を博している。また、他の医療機関や施設では対応が困難とされるケースの受入を行っており、区立の病院・老人保健施設だからこそできる役割を果たしていると評価できる。

④計画性を持って、台東病院・老人保健施設千束を運営しているか

事業者 評価 A	根拠	毎週の幹部会議や毎月の事業推進会議にて、運営状況の確認や課題の検討を行い、朝礼、研修会等で職員が病院・老健のあり方、目指すべき方向を認識できるようにしている。また、多職種によるワークショップを行い、将来像や改善策を協議した結果を運営に取り入れている。部門・部署毎では、管理職対象の目標管理制度を実施するなど、業務改善に取り組んでいる。年度末の全部署参加の報告会にて評価・検証を行う等、計画的に施設を運営している。
協議会 評価 A	根拠	病院・老健のあり方や目指すべき方向について、朝礼や研修会等により職員が共有する体制を整えている。多職種によるワークショップにおいて挙げた職員の意見を運営に取り入れており、将来に向けた意思決定に職員が参画している。また、管理職対象の目標管理制度を実施するなど、業務改善にも取り組んでおり、計画性を持って施設を運営していると評価できる。

5 総合評価等

【総合評価】

台東病院については、病床利用率及び在宅復帰率が堅調に推移しており、多職種による在宅復帰へ向けた支援体制も整えている。入院及び外来部門の紹介及び逆紹介患者数、CT・MRIの他院からの検査依頼件数は増加しており、連携の強化にも取り組んでいることから、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

老健千束については、社会福祉士の採用による連携の強化により在宅復帰率及び入所利用率が上昇した。また、在宅復帰やリハビリテーション体制の強化等により、「在宅強化型」の施設基準を取得した。共用スペースの活用等による多様なリハビリテーションの実施等、施設も効率的に活用しており、在宅復帰に向けた入所施設として機能していると評価できる。

収支については、台東病院は赤字となっているが、収益の増加により赤字額の縮減が進んでいる。老健千束は上位の施設基準の取得や、加算の算定件数増加に取り組んだことにより増収となっており、事業収益は黒字を維持している。施設全体では損益は黒字となっており、経営状況は概ね良好であると認められる。一方で、今後、施設設備の修繕及び備品の更新に係る費用や人件費の高騰による委託費の増加が見込まれる中、引き続き効率的な運営に取り組む必要がある。

その他、施設の運営については、利用者等からの意見を活かした改善の取り組みや、ワークショップを通じた職員の運営への参画等がなされており、計画的な運営を行っている。また、他の医療機関や施設では対応が困難とされるケースの受入を行い、区立施設としての役割を果たしている。

今後とも、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、利用者や運営協議会等の意見を活かしながら、区や地域の医療機関等と連携して、質の高いサービスの提供を図ることが求められる。

【その他意見】

- 高齢者の身体機能の維持向上のため、リハビリテーションの充実に努めてほしい。
- 在宅療養患者の急変時の受入など、在宅療養の後方支援の充実に努めてほしい。